

2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 01 月 31 日作成)

小委員会名	ソーラー建築情報小委員会		主 査 名：石川 幸雄 就任年月：2007 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (建築設備運営委員会)		委員長名：井上 勝夫 主 査 名：吉田 治典
設 置 期 間	2007 年 04 月～2010 年 03 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>ソーラー建築の普及を推進するため、PV 建築や熱利用建築に関する最新情報の収集、新データの作成を行い、会員および建築家に広く情報公開する。また、ソーラー建築の設計、評価に有用なデータ、資料の標準化を図り、管理する。さらに、設備設計図書のアカデミックスタンダード化に向けて、ソーラー設備設計図書の標準化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2007 年度：ソーラー建築に関する設計評価用データの収集・作成・整備・発信、ソーラー建築設備設計図書の標準化検討、シンポジウムの計画 ・2008 年度：ソーラー建築に関する設計評価用データの収集・作成・整備・発信、ソーラー建築設備設計図書の標準化検討、シンポジウムの実施 ・2009 年度：ソーラー建築に関する設計評価用データの収集・作成・整備・発信、刊行物の出版 		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>石川幸雄 (三重大学)、相曽一浩 (矢崎資源)、伊藤宏之 (テクノビジョン・インテリジェントシステムズ)、大野二郎 (日本設計)、木村建一 (国際人間環境研究所)、近藤純一 (鹿島建設)、後藤謙一 (後藤デザインシステムズ)、佐野邦彦 (建築環境・設備ネットオフィス)、榛葉敏昭 (ソーラーシステム振興協会)、中島康孝 (建築環境・設備技術情報センター)、長尾岳彦 (元旦ビューティー工業)、福田全志 (カンキョウエンジニアリング)、藤木隆明 (工学院大学)、渡辺荘児 (森ビル)、山口恵子 (建匠社)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)			
2008 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無：現在無し (公開予定) 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	7 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	<p>1. (名称) ソーラーアーキテクチャシンポジウム (2008 年 5 月 23 日開催) 参加者数 108 名 (資料名) ソーラーアーキテクチャシンポジウム</p>
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	

<p style="text-align: center;">目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>得られた成果：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソーラー建築に関する設計評価用データを収集・整備し、情報発信のためのシステム検討を行った。また、自治体とNEDO主催の新エネルギーフォーラム（2009年1月）等を通じて、情報発信を行った。 2. ソーラー建築設備設計図書の標準化の検討を行い、建築環境・設備設計図書に関するアカデミックスタンダード小委員会の活動を支援した。 3. シンポジウムを開催し、情報発信を行った。(内容は以下の通り) ○名称：ソーラーアーキテクチュアシンポジウム：2008年5月23日開催 (建築会館ホール) (参加者108名) <ol style="list-style-type: none"> 1. 主旨 13:00～13:10 (10分) 三重大学 石川幸雄 2. ソーラーアーキテクチュア技術 13:10～14:50 (100分) <ol style="list-style-type: none"> (1) ソーラー設備の建築デザイン化 (25分) 建築環境・設備技術情報センター 中島康孝 (2) 熱利用システム (25分) 矢崎総業 相曾一浩 (3) 光利用システム (25分) 武蔵工業大学 宿谷昌則 (4) 建築バイオミメティクス (25分) 三重大学 石川幸雄 3. プロジェクトと助成 14:50～15:20 (30分) <ol style="list-style-type: none"> (1) 自治体のプロジェクト (15分) 東京都 谷口信雄 (2) 助成・法規 (15分) NEDO 田窪祐子 4. ソーラーアーキテクチュア事例 15:30～17:00 (90分) <ol style="list-style-type: none"> (1) 太陽熱・太陽光利用 (30分) 日本設計 大野二郎 (2) 自然光・自然換気 (30分) 工学院大学 藤木隆明 (3) ダブルスキン・住宅 (30分) 東京大学 清家剛 5. 総合討議 17:00～17:30 (30分) 全員 <p>以上により、当初の活動計画目標を達成した。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本年度のシンポジウム開催結果から、シンポジウム資料に対する希望が多く、部数をもっと多く作成すべきであった点、資料は内容的にカラー印刷とすべきであった点などが、今後のシンポジウム開催に向けての検討課題として挙げられる。

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。